

# 滋賀県議会だより



No.108

編集・発行 / 滋賀県議会

## 6月定例会議の概要

6月24日～7月16日の23日間

6月定例会議では、「令和3年度滋賀県一般会計補正予算」をはじめとする知事提出議案19件と議員提出議案5件が上程されました。これらを審議した結果、意見書案2件、決議案1件を否決したほか、いずれも原案のとおり可決しました。

また、各委員会では、付託された各議案、請願その他所管事項について審査および調査を行いました。

### 令和3年度滋賀県一般会計補正予算を可決

新型コロナウイルス感染症に対応するための経費など、総額360億4,992万8千円の一般会計補正予算を可決しました。

補正予算には、新型コロナウイルス感染症への追加対策として、生活困窮者への自立支援金の支給、滋賀県広域ワクチン接種センターの設置、4か所目の宿泊療養施設の開設および県内中小企業者等への事業継続支援金などの経費として38億2,865万2千円その他、国の内示を受けた公共事業などの経費として310億675万9千円、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種における個別接種の支援策の期間延長や、職域接種の支援の経費として12億1,451万7千円が計上されています。



### 災害対策

**問** 4月28日に、国から淀川水系河川整備計画の変更案が示されました。現行の淀川水系河川整備計画からの主な変更点のポイントとその受け止めについて伺います。

**答** 変更点の主なポイントは、3点あると考えています。1点目は、流域のあらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」を推進するとされたことであり、流域における雨水貯留対策の強化や水防災に対応したまちづくりとの連携など、「滋賀の流域治水」の一層の推進につながるものと考えています。2点目は、琵琶湖の保全及び再生に関する法律を踏まえ、関係機関と連携のもとで取り組むとされたことであり、水陸移行帯の形成や侵略的外来水生植物の防除など、琵琶湖を健全で恵み豊かな湖として保全・再生を図る取組が一層推進されるものと考えています。3点目は、大戸川ダムについて、環境影響をできる限り回避・低減するための環境調査を含め、必要な調査等を行った上で本体工事を実施するとされたことで、これまでから早期整備を要望してきた本県にとって、その実現が確かなものになると考

### 感染症対策

**問** 感染予防と経済のバランスをとるためには、1日でも早く感染拡大を抑えることが求められます。5月から開始された「みんなで作る滋賀県安心・安全店舗認証制度」の現状の分析と今後の取組を伺います。

**答** 6月28日現在、620件の申請があり、既に404件の現地確認を行い、256件について認証の手続きを完了しています。認証は、制度開始の初期に申請が集中し、確認までに時間を要する事例が発生していました。が、現地確認の体制を増強したことなどにより、おおむね解消しています。

### 産業振興

**問** 危機的状況にある中小、小規模、個人事業主への更なる支援と立地企業が求めるニーズにいち早く呼応するための仕組みを構築すべきと考えますが、知事の認識を伺います。

**答** 飲食や宿泊等のサービス業や小売業など、長引くコロナ禍によって大きな影響を受けている事業者の皆さんの事業継続を支える必要があると同時に、コロナ後を見据え、経営力の強化や新たな事業展開に取り組もうとされる事業者のニーズにしっかりと応えし、取組が力強いものとなるよう後押ししていくことも重要であると考えます。

えています。こうしたことから、今回示された変更案については、総合的に見て同意すべきものと受け止めています。

**問** 淀川水系河川整備計画の変更に対する知事意見について、大戸川ダム建設の早期着工よりも、まずは、大戸川下流域の県民に対する一刻も早い流域治水政策の徹底が、住民の命を守ることに必要と考えますが、知事の考えを伺います。

**答** 川の中のハード対策は、計画規模以下の洪水に対して、確実に効果を発揮しますが、計画規模を上回る洪水は起こり得るため、大戸川流域においては、河川改修やダムの整備と合わせて、想定浸水深の周知徹底や安全な避難方法の理解促進など、川の外の対策を組み合わせたハードとソフトが一体となった多層的な対策を講じる必要があると考えています。

このため、これまでから、ダム下流で想定浸水深が大きく、水害リスクの高い4地区において、流域治水条例に則り、水害に備えた図上訓練や街歩きの実施、避難計画の検討などの取組を進めているところです。

今後とも地域と連携し、避難体制の充実を図りながら、早期に安全な住まい方が実現できるよ



認定証シール

う、しっかりと取り組んでまいります。

さらに申請を伸ばしていくため、6月から8月までの「県民・事業者集中支援月間」にあわせて、テレビCMやSNS広告などを重点的に行うことで一層の制度周知を図り、まずは、7月末までに一千件を目途に認証できると取り組んでまいります。

今後、GOTOイートの再開にあたり、利用者に対して認証店舗での利用を要請することを考えており、事業者のご協力もいただきながら、認証店舗のさらなる拡大に努めてまいります。

**問** 危機的状況にある中小、小規模、個人事業主への更なる支援と立地企業が求めるニーズにいち早く呼応するための仕組みを構築すべきと考えますが、知事の認識を伺います。

**答** 飲食や宿泊等のサービス業や小売業など、長引くコロナ禍によって大きな影響を受けている事業者の皆さんの事業継続を支える必要があると同時に、コロナ後を見据え、経営力の強化や新たな事業展開に取り組もうとされる事業者のニーズにしっかりと応えし、取組が力強いものとなるよう後押ししていくことも重要であると考えます。

県では、「県民・事業者集中支援月間」において、厳しい状況にある県民、事業者の皆さんに必要な支援策をできる限り速やかに、かつ確実に届けられるよう、経済団体とも連携協力し、全庁あげて取り組んでいるところです。

また、昨年度からは、企業立地サポートセンターを設置し、立地された企業からのニーズや操業環境の課題をきめ細かく伺うとともに、企業立地促進補助金により、企業の操業環境の課題解決に向けた支援に取り組ん

健康福祉政策

企業誘致や立地企業の再投資を呼び込むためには、市町と共に対応していくことが大切であり、他県の事例等を参考としながら、具体的な方策を検討してまいります。

不安を抱える女性の相談支援や居場所の提供などを行うとともに生活に困窮する女性への生理用品の提供に取り組み「女性のつながりサポート事業」を、今後の女性活躍推進につなげるとともに、女性にとつて働きやすい職場環境になるよう、県内企業への周知・啓発にかかる、今後の取組について伺います。

女性が社会で活躍するためには、女性特有の悩みを職場全体で理解し、職員同士が体調を気遣い合える職場環境を整えることが重要です。

今後、この事業を通じて、孤独・孤立で不安を抱える女性に寄り添い、必要とする支援にしっかりと取り組み、これを機に女性の生理の対策や健康の保持・維持・向上につながるよう充実に努めてまいります。

また、経済団体や労働団体、行政などで構成する「仕事と生活の調和・女性活躍推進会議」などの様々な会議、意見交換の機会や「滋賀労働」などの広報媒体を通じて、企業へのいっそうの周知に努めるとともに、滋賀労働局とも連携し、生理休暇などを取得しやすい働き

文化・スポーツ

やすい職場環境づくりが進められるよう取り組んでまいります。

6月27日に、滋賀県立美術館が再開館しました。滋賀全体が美術館という目標は、滋賀の新しい観光の在り方を念頭に置くべきと考えますが、知事の思いと今後のスケジュールについて伺います。

滋賀県立美術館の再開館を機に、滋賀ならではの文化やアートなどの美的資源に着目し、様々なテーマやストーリーでつないで発信することは、新たな観光、いわゆるニューツーリズムを確立し、地域の活性化にもつなげることができる、大きな可能性があると考えています。

今年度は新たに、県立施設や美術系ミュージアム間で情報共有や協議を行う場を設定し、ネットワークの構築をはかり、来年度以降の連携による展示や事業の実現につなげたいと考えています。



リニューアルした美術館のエントランス

環境政策

また、美術館の展覧会のテーマに関連して、地域と連携する取組を進め、さらに今後は、滋賀の美に関する統一的な広報・プロモーションを進める中で、観光事業者や、地域で様々な活動を行う団体等とも連携を深め、文化やアートをテーマとした周遊観光の提案を行うなど、さらなる事業展開につなげてまいります。

マザーレイクゴールズの策定はどのような効果を想定していますか。また、それを踏まえた財源確保や今後の琵琶湖保全の推進方針を伺います。

マザーレイクゴールズの策定は、琵琶湖にかかわる多様な主体が、琵琶湖を守るための自発的かつ主体的な取組を通じて、SDGsをより自分ごととして捉えるとともに、琵琶湖を通じてSDGsをアクションにまで落とし込み、互いの活動の連携を加速させる効果が想定でき、またCO2ネットゼロへの取組にもつながるものと考えています。



今後の琵琶湖保全の推進方針については、マザーレイクゴールズの推進による多様な主体との連携を行いつつ、今年3月に策定しました第2期の琵琶湖保全再生計画に基づき、国の支援

学校教育

も求めながら、しっかりと財源を確保し、琵琶湖の保全再生に向けて着実に取り組んでまいります。

高等専門学校の設立に向けて、開校までのスケジュールと早期設立に向けた知事の決意について伺います。

今年度は、有識者懇話会でのご意見や、入学者や産業界のニーズなどを踏まえながら、学科や学校規模の検討、事業シミュレーションなどを行い、年度末には、滋賀の高等専門学校としてあるべき姿を「構想骨子」として取りまとめることとされています。

具体的な開校の時期について、現段階では明確にお示しできませんが、設置認可、教員の確保、施設整備等についても一定の時間が必要だと承知しています。

高等専門学校は、15歳という若い年齢から専門的な教育を受けることができる学びの仕組みであり、地域に根差して課題を発見する力とそれを解決する技術力、実践力を育むことができます。この学びの仕組みを新たに本県に導入することで、地域との連携や、卒業生の活躍などにより、一段と力強い滋賀を作り出し、未来を切り拓いていくものではないかと考えています。

これらを踏まえ、今年度の「構想骨子」を取りまとめる中で、令和の時代にふさわしい新しい高等専門学校像をしっかりと描き、お示ししてまいります。

6月定例会議で審議した主な議案

Table with 3 columns: 議案番号, 件名, 結果. Lists various budget and administrative proposals.

6月定例会議で採択した請願

- オーガニック・自然農法による農産物の生産推進について

議会からのお知らせ

●滋賀県議会ホームページ、Twitter (ツイッター)

本会議や委員会の開催情報、議会の仕組み、議員の紹介、会議録など、県議会の最新の情報を随時掲載しています。また、本会議の様子はライブ中継と録画配信もしています。

滋賀県議会ホームページ

https://www.shigaken-gikai.jp/

滋賀県議会ツイッター

(アカウント名 @shigakengikai)



●テレビ放送の御案内

9月5日(日)および9月12日(日)の午後6時30分から、県議会広報番組「委員会活動レポート」をびわ湖放送で放送します。番組では、9月5日は常任委員会の、9月12日は特別委員会の、それぞれの委員の紹介、委員会の審査や県内調査の模様、委員長のインタビューなどをお届けします。どうぞ御覧ください。

6月定例会議で審議した決議・意見書

Table with 3 columns: 番号, 件名, 結果. Lists resolutions and opinions on various issues.

この印刷物は古紙パルプを配合しています